

看護職キャリアシステム構築プラン事業による看護基礎教育と臨床との教育連携

岡山寧子¹⁾・眞鍋えみ子¹⁾・神澤暁子²⁾・倉ヶ市絵美佳²⁾・橋元春美³⁾

1)京都府立医科大学医学部看護学科、2) 同キャリア実践開発センター、3)同附属病院看護部

【目的】A大学看護学科では、基礎教育・臨床との乖離を埋めるための教育の充実を目指して、看護職キャリアシステム構築プラン事業による看護学科・看護部との教育連携のシステム化を進めている。その中で、人事交流プロジェクトでは看護部から看護学科への教育支援を導入し、より実践的な看護の学習機会を学生に提供している。そのシステムは、教員が依頼したい授業内容を看護学科教育委員会が集約し、キャリア実践開発センターに申請する。センターは看護部へ派遣を依頼し、看護部が適任者を選任する。実際には、臨地指導教授制度を活用して、師長や認定看護師、専門看護師等が担当する。導入後 3 年が経過、年々その内容も充実してきた。ここでは、3 年目(H23 年度)の内容を紹介し、学生の授業評価等から本取組の成果を報告する。

【方法】H23 年度に教育支援を活用した授業 27 件の科目、方法、担当者、内容等を整理し、その状況を検討した。また、各授業後に学生による授業評価を実施した。評価内容は「授業への興味」「授業内容の難易度」「講師の熱意」「授業満足度」等で 5 段階尺度とした。学び・気づき等の自由記載も依頼した。倫理的配慮として、学生には授業の目的や評価が成績に影響しないことと個人が特定されないよう配慮することを説明し、了解を得た上で実施した。なお、評価表の回収率は 73.3~100%、1 件の授業とは 1~2 コマ(1 コマ 90 分)の講義または演習で、臨地実習は実習前オリエンテーションのみを含めた。看護部からの派遣者数は 43 名である。

【結果・考察】主な授業内容は、1 年生には入学直後に総合講義(看護職とは何か)を、2・3 年生の各専門科目に、医療安全、感染管理、看護管理マネジメント、緩和ケア、摂食・嚥下ケア、助産関連科目等の専門性の高い授業を実施した。4 年生の「看護の統合と実践」科目ではシミュレーション学習や OSCE での評価者として、また臨地実習開始前のオリエンテーションでは現場での看護活動をより具体的に教示した。各授業への学生評価をみると、得点がいずれも 4.1~4.8(5 点満点)と高得点で、中でも「授業満足感」「講師の熱意」得点が高く、アップデートな実践的スキルや情報を学習でき、先輩看護師の姿から看護実践への興味がより広がったと考えられる。今後、看護学科教育課程での本事業の位置づけを考えながら、さらに系統的でバランスのよい授業展開をすすめ、看護基礎教育と臨床とのつなぎを強化していきたい。(本報告は平成 21 年度採択の文部科学省による看護職キャリアシステム構築プラン事業報告の一部である。)